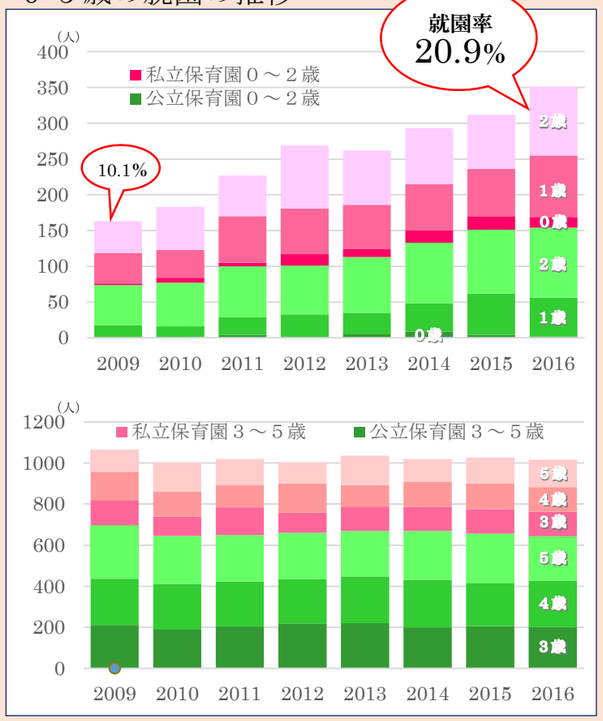
保育園が生まれ変わります！

現状

増加傾向！3歳未満児

施設の老朽化

0~5 歳の就園の推移



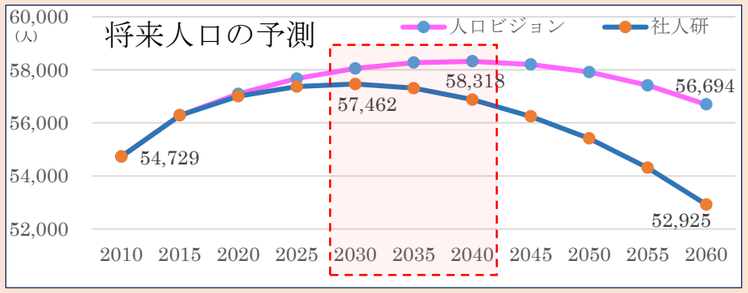
名　　称	延床面積	建築年度	構 造
1 太田第一保育園	841.94 ㎡	昭和 54 年	RC 造
2 太田第二保育園	915.67 ㎡	昭和 49 年	RC 造
3 古井第一保育園	1,105.79 ㎡	昭和 51 年	RC 造
4 古井第二保育園	465.72 ㎡	昭和 46 年	RC 造
5 山之上保育園	425.44 ㎡	昭和 47 年	RC 造
6 蜂屋保育園	619.27 ㎡	昭和 56 年	RC 造
7 加茂野保育園	1,221.04 ㎡	平成 10 年	RC 造
8 ほくぶ保育園	360.33 ㎡	昭和 44 年	RC 造
9 下米田保育園	510.83 ㎡	昭和 47 年	RC 造

ここ数年、３歳未満児の保育園への就園が加速しています。特に１歳児及び２歳児が急増していますが、これは女性の社会進出（共働き）、民間事業者の育児休暇が１年であることが大きな要因であると考えられます。

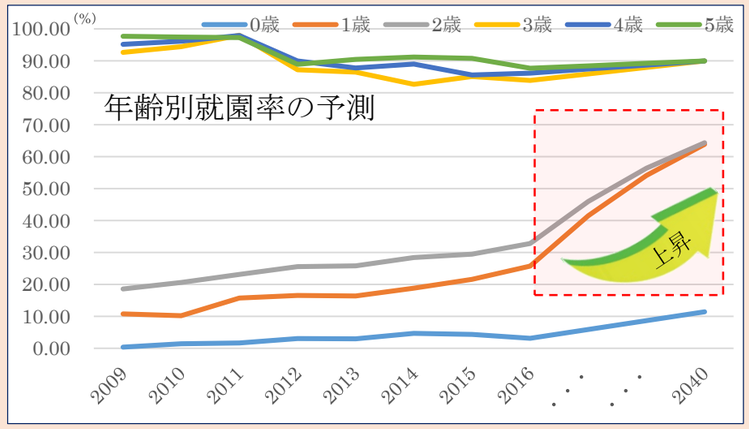
市内９園の保育園は、平成１０年に建築された加茂野保育園を除き、昭和５６年以前の旧耐震基準で建築されています。耐震工事は完了しているものの、急増している３歳未満児の保育を考えた設計になっておらず、今後は、施設不足になり、待機児童が増えることが明白です。

予測

2030～2040 人口のピーク



急上昇する1歳児・2歳児



美濃加茂市の人口は、2030～2040 年にピークを迎え、その後、減少すると予測されています。これは、国が提唱する「地方創生」において、合計特殊出生率を 1.8 まで上げることで人口減少に歯止めをかけたときに推測される人口となっています。

また、ピーク時まで人口は増加するものの「少子化・高齢化」も進むため、子どもの絶対数は「横ばい」状態であると推測されます。

しかし、１歳児や２歳児を保育園に預けるという保育ニーズが急上昇すると予測されるため、子どもを預かる施設の量は不足し、「待機児童」が増えていくことになります。

美濃加茂市が策定した総合戦略「Caminho」では、女性の活躍とともに、安心して子育てできる環境を整えることを掲げています。

これらの課題解決のために公立保育園や私立保育園、私立幼稚園との連携が不可欠となります。そのため、子ども子育て会議（有識者、保育園等経営者、公募市民が参加する会議）を通じて、市全体の施設量を検討していきます。

将 来 像

施設の統合

保育園 → 統合保育園
保育園 → 統合保育園

統合保育園
定員１８０人程度
３歳未満児対応
相談室等の設置
＜建て替え＞

施設の統合とは、複数の保育園を一つに統合することを意味します。

現状の保育園では３歳未満児に対する保育ニーズに対応できないため、統合保育園では乳児室やほふく室を整備し、身体的な発達に大きな影響をもたらす乳児期の保育を充実させていきます。また、子育てに悩む保護者との面談は、情報保護の観点からも個室が理想であることから、相談室を整備し、いつでも相談ができる体制を整えます。

定員は、０ 歳未満児は１クラス、２歳以上児は各２クラスを想定し、１８０人程度の規模となる予定です。

施設の複合化

保育園 → 複合化保育園
公共施設等 → 複合化保育園

複合化保育園
＜建て替え＞

施設の複合化とは、保育園以外の公共施設等と統合することを意味します。

２０３０～２０４０年に人口のピークを迎えたのち人口は減少し、少子化・高齢化が進んでいきます。その時に過剰施設とならないようにすること、市の財政状況を考慮すれば、建て替えが必要な他の公共施設（例：交流センター）等との複合化は避けられません。また、核家族化が進む中、子どもと高齢者の交流が希薄になりがちであるため、保育園と交流センター等を複合化することにより、世代間交流を充実させていきます。

民間活力の導入

公立保育園 → 私立保育園
＜建て替え＞
＜委託＞

民間活力の導入とは、公立保育園を私立保育園への移行、公立保育園を民間に委託することを意味します。

最近の保育ニーズには、長時間保育、教育的視点、送迎サービスなどがあり、公立保育園と私立保育園の保護者の選択肢が必要であると考えています。そのため、公立保育園を統合、複合化するとともに、民間（社会福祉法人または株式会社）に移行したり、民間に委託することを視野に入れて検討していきます。

公立保育園と私立保育園のそれぞれの特性を活かし、市全体で子育てがしやすい環境、安心して働くことができる環境を作り上げます。

【 お問合せ先 】
美濃加茂市 健康福祉部 こども課　　０５７４－２５－２１１１（内３１４）